

求めたのは
理想像。



生誕 150 年 記念

上村松園

Uemura Shoen

2025.3.29 SAT - 6.1 SUN



大阪中之島美術館
NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

4階
展示室

開場時間：10:00～17:00(入場は16:30まで) 休館日：月曜日、5/7(水) ※4/28(月)、5/5(月・祝)は開館

大阪中之島美術館：大阪市北区中之島4-3-1 公式サイト <https://nakka-art.jp> 問い合わせ先：06-4301-7285(大阪市総合コールセンター) 受付時間 8:00-21:00(年中無休)

展覧会公式サイト <https://art.nikkei.com/shoen/>

主催：大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、神戸新聞社 特別協力：公益財団法人 松伯美術館 協賛：DNP大日本印刷

《わか葉》(部分) 1940年 名都美術館 【前期展示】

《 報道関係者お問い合わせ先 》

「生誕150年記念 上村松園」PR事務局 (株式会社TMオフィス内) 担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：uemurashoen@tm-office.co.jp

京都に生まれた上村松園（1875-1949）は、京都府画学校をへて、鈴木派の鈴木松年と四条派の幸野椋嶺、竹内栖鳳に学び、並外れた努力を重ねて名声を築いた女性画家です。男性で占められていた明治期の美術界にあって、実力派として頭角を現した松園の存在は際立ち、秀逸な才能で早くから全国的に注目されました。文部省美術展覧会（文展）などで制作発表を行い、美人画の第一人者として大正から昭和期にかけて活躍し、74歳で亡くなるまで画業を全うし、ひとりの女性としても喜びや試練に満ちた豊かな生涯を送りました。松園は理想の女性像を模索し、制作において揺るぎない信念を貫き、描かれた気品ある清澄な女性像の数々は今日も観る者に深い感銘を与えます。

本展は、上村松園が誕生して150年の節目を迎えることを記念して、数々の作品によってその画業をあらためてご紹介する回顧展です。松園の芸術は、同時代に女性像を描いた鍋木清方や北野恒富などとは一線を画し、独自の理想を追求しました。また、傑出した女性画家の先駆者として、松園の存在は後進の指針となり、池田蕉園や島成園をはじめ多くの女性日本画家が誕生する契機となりました。四条派の伝統が色濃い京都画壇にあって、自ら美人画の系譜を切り拓いた上村松園は、多くの意味でパイオニアとしての運命を背負い、それを見事に成就したといえるでしょう。

本展は、珠玉の名作を含む作品群によって松園の画業を振り返ります。また、女性として初めて文化勲章を受章し、近代美術史に揺るがない足跡を残した松園芸術の真価を振り返る機会といたします。



上村松園 《三美人之図》 1908年
光ミュージアム 【通期展示】

01. 大阪の美術館で初&大阪だけで開催する、松園の大回顧展
02. 重要文化財の《母子》《序の舞》をはじめ、
《草紙洗小町》や《晩秋》など珠玉の名品が大阪に集結
03. 初期から晩年まで、松園の画業をたどる100件以上を展示
04. 完成作に関連する表現豊かな下絵や素描（松伯美術館蔵）も、多数紹介
05. 日本文化における“美”を再発見する機会



上村松園 《わか葉》 1940年 名都美術館 【前期展示】



上村松園 《待月》 1944年 吉野石膏コレクション 【後期展示】

第1章 人生を描く

日本の女性がそれぞれの年代を迎える姿を、松園は近世風俗画や浮世絵などを研究し、髪型や着物などを細やかに描き分けて表現しました。若い頃から松園は女性の一生を、季節の巡りになぞらえて描き、その生き方、あり方に着目しています。本章では、女性の人生を見つめる松園の眼差しを作品から読み解きます。



上村松園 《母子》（重要文化財） 1934年
東京国立近代美術館【後期展示】

慈愛に満ちたまなざしで青眉の母が子を見つめる。母性をテーマとする松園作品のなかでも代表的な名作。



上村松園 《四季美人図》1892年頃
光ミュージアム【通期展示】

4人の女性は、それぞれ春夏秋冬の季節を表している。年齢に応じて描き分けられた髪型や装いに注目したい。

第2章 季節を描く



上村松園 《待月》1926年
京都市美術館【前期展示】

すらりとした女性の優美な立ち姿が後ろ向きに描かれる。柱の直線によって女性の曲線美が強調されている。



四季折々に生きる女性の姿を松園は生涯にわたり描きました。これらの作品は松園ならではの品格と愛らしさに満ちて、広く親しまれています。本章では、春夏秋冬と巡りくる四季の風趣のなかに息づく女性たちを描いた作品を取り上げ、松園が注ぐ温かく懐古的な眼差しをご覧ください。

上村松園 《春》1938年
田淵ホールディングス株式会社【通期展示】

盛装した娘と付き添う女性たちの外出。晩春の華やいだ光景が、見事な構成と美しい色彩によって描かれる。

第3章 古典を描く

松園は修業時代から古画の図案を研究し、伝統芸能、古典文学を画題に取り上げています。大正期前半には人物の内面表現を追求し、叙情性を打ち出しますが、次第に内なる感情を凝縮し、気品高い古典の本質へ到達します。本章では、画題を伝統に求めた松園が画中の女性像を表現する手法に着目しながら名作の数々をご紹介します。



上村松園《夕くみ》1935年頃
大阪中之島美術館【通期展示】

恋人を想いながら踊る海女の姿は日本舞踊の演目のひとつ。松園は伝統的な画題を後世に伝えようとした。



上村松園《序の舞》(重要文化財) 1936年
東京藝術大学【後期展示】

能を舞う若い女性は凛として、優美な所作のなかにも意志が感じられる。松園芸術における真の代表作。



上村松園《草紙洗小町》1937年
東京藝術大学【前期展示】

小野小町が草子を洗い流して潔白を証明した瞬間が描かれる。能面を思わせる顔は強い意志を感じさせる。

第4章 暮らしを描く

松園は人々の日常のひとこまを数多く描きました。明治期の作品は同時代の風俗にも目を向けましたが、昭和期の作品は、近代化する世の中から失われゆく風俗を懐かしむ気持ちが込められていきます。行事を楽しみ、化粧を施し、家事に勤しむ女性たちの暮らす姿が松園の絵筆によって凛として甦ります。



上村松園《舞仕度》1914年
京都国立近代美術館【前期展示】

出番を待つ緊張した様子の舞い手の娘と、談笑する3人の囃子手の女性を対照的に描いた、大正期の秀作。



上村松園《鼓の音》1940年
松伯美術館【前期展示】

振袖姿の娘が小鼓を打とうとしている瞬間を描く。朱赤の着物と青い帯のコントラストが鮮やかで美しい。



上村松園《晩秋》1943年
大阪市立美術館【後期展示】

障子の破れを繕う若い女性のさりげない姿が清々しい。日常の働く女性を描いた、晩年の松園による名作。

音声ガイドのナビゲーターは俳優・木村多江さんに決定！

**木村多江（俳優）**

1971年、東京都生まれ。舞台役者としての活動を経て96年にドラマデビュー。ドラマ「リング」「大奥」などで注目を集め、多彩な演技力を活かし数多くの映画、ドラマに出演。現在、NHK-Eテレ「木村多江の、いまさらですが…」のMC、NHKBS「美の壺」ではナレーションを務めている。日本舞踊松本流の師範、野菜ソムリエの資格を持つ。

貸出料金：1台650円（税込）

◆講演会「上村松園の芸術について（仮）」

登壇者：中村麗子（東京国立近代美術館 主任研究員）
開催日時：2025年3月29日（土）14:00～15:30（開場：13:30）
会場：大阪中之島美術館 1階ホール
定員：150名（先着順、事前申込不要）
参加費：無料※本展観覧券(利用後の半券可)が必要です。

◆講演会「上村松園の描く女性像の変遷」

登壇者：山田諭（美術史家）
開催日時：2025年4月26日（土）14:00～15:30（開場：13:30）
会場：大阪中之島美術館 1階ホール
定員：150名（先着順、事前申込不要）
参加費：無料※本展観覧券(利用後の半券可)が必要です。

◆レクチャー「女性画家たちの20世紀」

登壇者：北原恵（大阪大学 名誉教授）、小川知子（大阪中之島美術館 学芸員）
開催日時：2025年5月11日（日）14:00～15:30（開場 13:30）
会場：大阪中之島美術館 1階ホール
定員：150名（先着順、事前申込不要）
参加費：無料 ※本展観覧券(利用後の半券可)が必要です。

◆担当学芸員によるギャラリートーク

開催日時：2025年4月16日（水）、5月22日（木）15:00～15:45
会場：大阪中之島美術館 4階展示室
定員：30名（要事前申込）※受付開始は2025年3月中旬予定
参加費：無料 ※ただし当日ご利用になられる観覧券が必要です。

※最新のイベント情報は展覧会公式サイトをご覧ください。

クリアファイルやレターセットなどの定番商品から、作品に描かれた着物や髪飾りをモチーフにした和物まで、オリジナルグッズを多数ご用意。松園の美人画の世界を日常生活でもお楽しみ頂けます。



《三美人之図》で描かれた和傘を再現。



《三美人之図》
1908年 光ミュージアム
メタルブックマーカー



《わか葉》
1940年 名都美術館
メタルブックマーカー

《開催概要》

展覧会名：生誕150年記念 上村松園

会 期：2025年3月29日（土）～6月1日（日） 前期：3月29日～5月11日 後期：5月13日～6月1日

休 館 日：月曜日、5月7日（水） ※4月28日（月）、5月5日（月・祝）は開館

開場時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

観 覧 料：一般 1,800円（前売・団体 1,600円）

高大生 1,500円（前売・団体 1,300円）

小中生 500円（前売・団体 300円）

※税込価格。

※前売券販売期間：2025年1月15日（水）10:00～3月28日（金）23:59

※団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に大阪中之島美術館公式ホームページからお申込みください。

※学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式ホームページ学校団体見学のご案内からお申込みください。

※障がい者手帳などをお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお申し出ください。（事前予約不要）

※本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。

※事前予約制ではありません。展示室内が混雑した場合は、入場を規制する場合があります。

※災害などにより臨時休館する場合があります。

チケット販売場所：大阪中之島美術館チケットサイト、展覧会公式オンラインチケット（etix）、各種プレイガイド

会 場：大阪中之島美術館 4階展示室

主 催：大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、神戸新聞社

特別協力：公益財団法人 松伯美術館

協 賛：DNP大日本印刷

展覧会公式サイト：<https://art.nikkei.com/shoen/>

美術館公式ホームページ：<https://nakka-art.jp/exhibition-post/shoen-2025/>

お問い合わせ：06-4301-7285 大阪市総合コールセンター（なにわコール）

※受付時間 8:00～21:00（年中無休）

《報道関係者お問い合わせ先》

「生誕150年記念 上村松園」PR事務局（株式会社TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

TEL：090-6065-0063（馬場）090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：uemurashoen@tm-office.co.jp